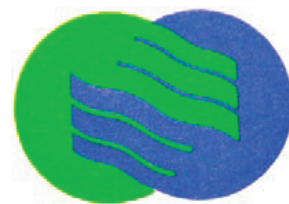


ANIC info



Association for
Nakano
International
Communications

中野区国際交流協会

2023
November

中野でひろがる「やさしい日本語」

さまざまな「やさしい日本語」研修の取り組み
夏休み子ども日本語クラス「やったね！の会」
イベントレポート 国際短期大学からインターン生
夕涼み会

「ユニカール&ボッチャ」を開催しました。

中野工科高校の先生が来てくださいました！

お知らせ 多文化キッズコーディネーターにご相談ください！
編集後記



さまざまな「やさしい日本語」研修の取り組み

中野区国際交流協会（以下、ANIC）では、毎年およそ 5,000 人（延べ数）の学習者が日本語を学習しています。その国籍は、約 50 か国、そのほとんどが「あいうえお」から学習している人たちです。

そのため ANIC では、日本語学習歴が半年程度、漢字を使用しない国から来た人たちをイメージして「やさしい日本語」で伝える取り組みをしています。その輪が広がるように、さまざまな方たちを対象にした「やさしい日本語」講座を実施しています。

区民対象

なかの やさしい（わかる）日本語講座

日本で一番やさしい日本語を目指しています。2020 年から開催し、今年で 4 年目となりました。NPO 多文化子ども自立支援センター代表理事の中山眞理子先生を講師に迎え 7 月 4 日（火）～ 8 月 15 日（火）までの全 6 回、20 人が参加しました。「日本語」に関心を持ち、外国の方と日ごろから接する機会が多い方などが受講しています。外国人のアシスタントは ANIC で日本語を学習中の方たちです。実際に自分が考えた「やさしい日本語」が彼らに通じるかどうか、直接体験できるのがこの講座の醍醐味です。6 回の研修で、どんどん自分の「やさしい日本語」の感覚が研ぎ澄まされていくのを実感していただけました。

協力者をちょっとご紹介



エマさん（イギリス）
日本語学習歴 1 年 10 か月

電話で話すときに緊張します。話すとき、直接「やさしい日本語」で話してくれると安心します。「分かち書き※」になっていると、分からない言葉を自分で調べることができます。 ※文章において語の区切りに空白を挟んで記述すること



ジョージさん（イギリス／フランス）
日本語学習歴 6 か月

「やさしい日本語」で話してもらえると、よくわかるので自信がつきます。もっと日本語を勉強して難しい文章も読めるようになりたいです。

中野区職員対象

やさしい（わかる）日本語研修

入庁 3 年目の 114 人の区の職員を対象に、4 回に分けて研修を行いました。中山先生の講義の後、5～6 人ずつのグループに分かれ、区で実際に使っている住民税や児童館の使用法などの文書を、どうすれば「やさしい日本語」を使ったわかりやすい文書になるか議論し、模造紙に書いて発表しました。また、「やさしい日本語」への口頭練習も行いました。

「窓口対応や文書作成時に活かしていきたい。」「普段あたりまえに使っている言葉が伝わらない。配慮が必要だとわかった。」「どんな言い換えができるか考えるのが難しかったが、わかる言葉をうまく活用して、わかりやすい説明ができるようになりたいと思った。」等の感想がありました。



相手に伝わるように話します

防災関係者等対象

「やさしい日本語」を活用した防災指導

8 月 24 日（木）、中野消防署からの依頼で、中野消防署及び野方消防署、野方警察署、中野区自衛隊、窪田理容美容専門学校、NTT 東日本の職員を対象に研修を行いました。中野消防団や中野消防署災害時支援ボランティアも参加され、約 60 人が学びました。研修は、東京都つながり創生財団が制作した動画の「防災」に関するものを活用して行いました。

「やさしい日本語」研修の 1 週間後の「防災フェアなかの」ですぐに実践する場があり、AED の説明の方も「やさしい日本語」で説明するよう意識されていました。すぐに活用する場があり、実際に「やさしい日本語」の効果を感じてもらえることができました。



やさしい日本語で説明する消防団員

医療関係者対象 医療関係者のための「やさしい日本語」研修

10月11日(水)、10月20日(金)の2日、順天堂大学・東京都との共催で、外国人患者とのロールプレイで学ぶ医療関係者のための「やさしい日本語」研修を行いました。中野区の保健師や地域包括支援センターの職員の方、病院で事務をされている方など2日間で45人が参加しました。20日に行われた帝京大学大学院公衆衛生学研究科・帝京大学医療共通教育研究センター教授の石川ひろの先生の講義では、医療現場での「やさしい日本語」は残念ながらまだ認知度が低い一方で、ニーズは高く、効果的であり、多くの人が「やさしい日本語」での対応を求めているとのことでした。

ワークショップでは「足首をねんざした患者に病状を説明し、処方箋を渡し、湿布と鎮痛薬の使用方法を説明する」「保健師が生後1か月の赤ちゃん訪問時に外国人のお母さんに予防接種について説明する」等、実際にあるシチュエーションを「やさしい日本語」にするロールプレイをしました。グループに外国人が模擬患者として入り、わかるかどうか、答えました。単に言葉が難しいだけでなく、例えば「赤ちゃん訪問」のようなサービスが母国にはないと、なぜ保健師が自宅に来るのか理解できない等の問題があることもわかりました。

参加者からは「注射、ワクチン等どこまで使えるのか？何を言うと通じるかわかった。」「シンプルに言うことの大切さがわかった。」「とてもいい経験になった。今後に活かしていきたい。」等の声がありました。



ジェスチャーで「注射」と言ってもらってわかりやすい

できました！『中野の防災』やさしい日本語版

中野区には『中野の防災』（日本語・英語・中国語・韓国語）パンフレットがあります。これには、中野区内の避難所や地震に備えておきたいものなどがまとめられています。中野区の「やさしい日本語版」作成の取り組みに中野区国際交流協会のやさしい（わかる）日本語サポーターが協力しました。まずは地域防災係で、通常の日本語版から「やさしい日本語」に翻訳しました。日本語版を「やさしい日本語」に逐語訳すると、どうしても文字数が多くなってしまいます。大切な情報を確実に伝えるために、ポイントをしぼりイラストにもこだわりました。やさしい日本語版は、中野区のホームページの中野区防災地図のところにアップされています。



やさしい（わかる）日本語サポーターをご活用ください！

中野区国際交流協会には、5人の「やさしい（わかる）日本語サポーター」がいます。地域でのイベントや配布物を「やさしい日本語」にしたいという要望にお応えし「やさしい日本語」への翻訳のお手伝いをしています。先日も、野方東町会からご相談を受け、「English サッカースクール」のチラシを「やさしい日本語」に翻訳しました。地域の外国の方とのコミュニケーションで「やさしい日本語」を活用するための出前講座もいたします。お気軽にご相談ください。



夏休み子ども日本語クラス「やったね！の会」

7月21日（金）から8月21日（月）まで全12回、53人の小中学生が参加しました。その最終日に、酒井区長や入野教育長、小中学校の先生方を迎え、日本語で書いた作文を発表しました。

「ぼくのかぼちゃ」 令和小5年 カンフォンイー（日本語学習歴 1年）

ぼくのいえのにわにかぼちゃがあります。かそくがそだてます。水をたくさんあげます。
ぼくのかぼちゃはやきゅうのボールぐらいおおきいです。ぼくのかぼちゃはいっししかありません。そのかぼちゃはサッカーボールの大きさになって欲しいです。
ぼくのいにはほかのやさいもあります。ピーマンやレタスやきゅうりなどがあります。
ぼくのやさいが大きくなったとき、サラダをつくりたいです。



「私の国ネパール」 みなみの小6年 バウダチャリヤ パラキリティ（日本語学習歴 1年）

ネパールは山に囲まれています。ネパールは中国とインドのあいだにあります。
ネパールはおしゃかさまが生まれたところです。世界で一番高いエベレスト山（8848m）はネパールにあります。ネパールには世界で一番高い十の山の中で八つがあります。ネパールはヒンドゥー教の国です。
ダサインはネパールの一ばん大きなおまつりです。おでこにティカをつけて、みみにザマラをつけます。そして、ネパールのりょうりをたべます。そして、たこあげをしてあそびます。



「ぼくのすきなもの」 北中野中3年 カプリ アルビックス（日本語学習歴 3か月）

ぼくのすきなものはサッカーです。すきなサッカーせんしゅはメッシです。かれのドリブルとパスがすきです。サッカーでのわたしのポジションはひだりウィングです。ぼくは中学3年でサッカーぶにしょくしてしています。でも、一がっきでクラブはおわりました。今は、友だちとこうえんでサッカーをしています。ぼくのいとこはサッカーがとてもじょうずで、たくさんのトーナメントにでています。ぼくもいとこのようにサッカーがじょうずになりたいです。



「僕の故郷の味」 第五中3年 張智碩（日本語学習歴 8か月）

僕の故郷は河南省新郷市です。ここは北京や上海ほど有名ではありませんが、でもそこは僕が小学校三年から今年二月まで住んでいた町だから、この町が大好きです。農業がさかんで、多くの農産物を海外にも輸出しています。それは米、大豆、トウモロコシと高粱等です。
僕たちはいつも焼き肉を食べていました。特に焼き饅頭（マントウ）の味がずっと記憶の中に残っています。



「僕の夢」 中野東中3年 齋藤 龍（日本語学習歴 1年）

僕の夢はバイオリニストになることです。五才の時にピアノを始めて、その日から音楽が好きになりました。小三になった時、バイオリンをひき始めて約六年たっています。でもまだ好きです。
バイオリンは素晴らしい楽器です。自分の気持と意思を楽器に込めて素晴らしい音を出せる楽器です。バイオリニストの音は一人一人違います。皆自分のスタイルがあります。僕はバロック音楽が好きです。バロック音楽は十七世紀から十八世紀のヨーロッパで作られた音楽です。バロックの作曲家はバッハやビバルディが含まれます。
将来バイオリニストになるために、必死に頑張ります。



「日本へ来て頑張ったこと」 明和中3年 バスネット サンジャヤ（日本語学習歴 2年3か月）

僕は二年半前に日本へ来ました。日本へ来て最初に難しかったことは日本語でした。最初は外国人は皆そうだと思います。
日本語が分からなくて、生活に使う普通のコミュニケーションと勉強とかができませんでした。中学校に入ってたくさん分からなかったこともありました。その時、中学校がアニック（中野区国際交流協会）を紹介して、ここで日本語の勉強をすることになりました。
アニックへ来て優しい先生方が丁寧に日本語を教えてくださいださってだんだん日本語を話したり、書いたりできるようになりました。
日本語が普通に話せるようになって、色々なことで家族にも手伝うことができました。アニックの全部の先生方ありがとうございます。アニックへ来て日本語だけでなく色々なことを学んで、とても嬉しいです。ここで学んだことは日常生活にとっても役に立つのです。
最後に、日本へ来て日本食が大好きになりました。学校の給食もとても美味しいです。僕は一番「みそしる」と「ラーメン」が好きです。とても美味しいです。皆さん何が好きですか。



イベント／レポート

国際短期大学からインターン生

8月16日(水)から5日間、江古田にある国際短期大学からインターン生を受け入れました。夏休み子どもにほんごクラスの最終日に行われる「やったね!の会」の準備を中心に様々な事業を展開していることを体験していただきました。

また、9月22日(金)～10月7日(土)まで中野・ウェリントン友好子ども交流事業でニュージーランドウェリントンから留学生が来るので、ANICの入り口のガラスケースにニュージーランドのイメージを考えてもらい、ディスプレイしてもらいました。短い期間でしたが、熱心に一生懸命取り組んでいただきました。



「ユニカール&ポッチャ」を開催しました。

10月15日(日)、南部スポーツ・コミュニティプラザにて国際スポーツ交流「ユニカール&ポッチャ」を行いました。参加者は30名で外国の参加者は中国、イギリス・フランス、エストニア、ロシアの方でした。

ポッチャとユニカールをそれぞれ体験し、後半は試合を行いました。3人一組なので、チームで喜ぶ姿が見られました。「初めてでも楽しめた。」「また、参加したい」等声がありました。

ご協力いただいた東京都ユニカール協会石井会長をはじめ、すきなみユニカール同好会の皆さま、お世話になりました。



夕涼み会

7月13日(木)夕涼み会を行いました。縁日の出し物や絵手紙体験、かき氷などがありました。鳳蝶会(あげはかい)の先生に「東京音頭」を中心に、盆踊りを教えていただきました。着付けのボランティアさんに浴衣をきつけてもらい、輪になって何度も踊って、皆、とても上手に踊れるようになりました。

「浴衣を着ることができてうれしかった。」「皆で一緒に踊るのが楽しかった」等の感想が参加者からありました。また、7月17日(月・祝)に「中野駅前大盆踊り大会」があり、「最多人数で盆踊りを踊る」ギネス世界記録に中野区国際交流協会も参加し、チャレンジしました。残念ながら、ギネス達成はなりませんでした。が、「みんなで頑張りました。残念ですが、楽しかった。また挑戦したいです。」といった声がありました。



中野工科高校の先生が来て下さいました!

11月3日(祝)第10回外国語が母語の親と子どものための高校進学説明会を行いました。中国とネパールの親子、約30人が集まり、東京都の在京外国人枠のある都立高校や一般入試の特別措置についてお話をしました。また今回は、初めて中野工科高校定時制の副校長先生をお招きし、授業の様子や資格取得、卒業後の進路や就職についてお話いただきました。受験が漠然としていて緊張感が持てずにいた子どもたちも、具体的に高校で何を学ぶのかを知り、自分自身の進路についてきちんと向き合う機会になりました。



「にほんご」こまっていますか？

多文化キッズコーディネーターにご相談ください！

外国につながるのある子どもたちや保護者の方の困りごとに寄り添い、さまざまなサポートを行います。また、学校・地域・NPO・行政機関などと一緒に、必要な支援や情報を届けます。



たとえば…

- 子どもの日本語教室を探している
- 来日して間もなく、日本語がわからない
- 海外生活が長く、子どもの日本語が心配
- 子どもが日本の学校に入るにはどうすればいいか
- 高校受験の仕組みがわからない
- 進路について相談したい…

など、さまざまなご相談に応じます。

中野区国際交流協会 (ANIC) は、2002 年からボランティアの皆様とともに「子ども日本語クラス」を実施し、外国につながる多くの小中学生の日本語をサポートしています。



問合せ

中野区国際交流協会 (ANIC)

中野区中野 2-9-7 なかの ZERO 西館

電話 03-5342-9169 (月～金 9:00-17:00)

Email anic@nifty.com

編集後記

先日久しぶりに渋谷スクランブル交差点に行き、驚きました。非常に多くの多様な人種の人がスマホを片手に写真を撮っているのです。多くの国から外国人が来ていることを実感しました。

(M)

